

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R 6 入学 現 3 年生	国語		数学		英語
	2 年時	3 年時	2 年時	3 年時	3 年時
	県	全国	県	全国	全国
	64.6	68.0	60.6	60.0	480
	(1.06)	(1.10)	(1.15)	(1.11)	
R8 正答率の全国比		1.06		1.05	

◎ 2 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、3 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

◎ 「中学校英語」は、3 技能「聞くこと・読むこと・書くこと」を統合した IRT（項目反応理論）に基づいて算出した IRT スコアを表示。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○学習状況調査【3 教科共通】に読み取れる実態

- ・全国や県と比べると、平均正答率が高い。
- ・無回答率が、全国や県と比べると低い。

○学習状況調査【国語】から読み取れる実態

- ・学習指導要領の内容、知識及び技能の 3 つの事項のうち(1)言葉の特徴や使い方に関する事項は全国平均よりやや低いが、それ以外は佐賀県と全国の平均正答率より高い。
- ・学習指導要領の内容、思考力、判断力、表現力等の 3 つの事項は、佐賀県と全国の平均正答率より高い。
- ・問題形式では、選択式、短答式、記述式いずれも正答率が高い。

○学習状況調査【数学】から読み取れる実態

- ・学習指導要領の領域の 4 つの事項のうち B 図形は佐賀県、全国平均よりやや低いが、それ以外は佐賀県と全国の平均正答率より高い。
- ・問題形式では、短答式、記述式いずれも正答率が高い。・学習指導の領域のすべての項目において、正答率が高く、佐賀県と全国の平均正答率を上回っている。
- ・問題形式では、短答式と記述式の正答率が高いが、選択式の正答率が低い傾向にある。

○学習状況調査【英語】から読み取れる実態

- ・CBT への入力スキルが高い生徒が多い。
- ・音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる問題の正答率が高いが、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率は低い。

○意識調査から読み取れる実態

- ・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」や「朝食を毎日とっているか」の質問では、肯定的な回答の割合が高く、生徒は良好な生活リズムができていることがうかがえる。

- ・授業ではほぼ毎日タブレット端末などの ICT 機器を使って学習した生徒の割合が高く、自分の考えをまとめ、発表する場面で積極的に活用していることがうかがえる。
- ・「1 日当たりどれくらい家庭学習をしますか」では、平均 1 時間 3 0 分程度となっており、「1 日当たりどれくらいスマートフォンやタブレットで SNS や動画視聴をしますか」では、平均 2 時間程度の視聴があり、家庭学習の時間が少なくなる理由の一つと考えられる。また、家庭学習に ICT 機器を利活用している生徒の割合は高い。
- ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」に肯定的に答えた生徒は 87.1% と割合は高い。
- ・「人が困っているときは、進んで助けますか」に肯定的に答えた生徒は 100% であった。
- ・人の役に立つ人間になりたいと考える生徒の割合が高い。
- ・「新聞を毎日読んでいない」や「普段読書をしない」生徒の割合は高い。
- ・国語、数学、英語の勉強が好きな生徒の割合は高いが、授業で学習したことを今後の学習で活用しようとする生徒の割合は低い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・各教科においてタブレット端末などの ICT 機器を有効に利活用し、他者とかかわる活動を仕組んだ「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながる授業づくりを研究し、全職員が実践する。
- ・各教科の授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する機会を増やす。
- ・各教科の学習内容が、日常生活の中でどのように生かされているのか、具体的な事象をもとに実習する機会を増やす（修学旅行、職場体験、地域奉仕活動など）。
- ・電子黒板にモデルやリード文を示し、書くことが苦手な生徒にも、取り組もうとする意欲や上手に書けたという成功体験をもたせるように工夫する。
- ・定期テストや課題テスト等で記述式の問題を増やしたり、振り返りをタブレット端末で文章表記させたりして、文章を書く機会を増やす。
- ・学級活動や特別の教科道徳の授業では、自己肯定感を高める教材を計画的に取り扱っていく。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・生徒会活動において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する機会を増やす。
- ・ICT スキルの向上のためにタイピングの練習を取り入れる。
- ・授業中の姿勢、机上の準備、話の聞き方、発表の仕方などの学習規律を高める。
- ・フォーサイト（ふりかえり力向上手帳）を利活用して、計画的に家庭学習に取り組ませる。
- ・学習内容の定着に向けた朝の活動（名称は北中クリエイティブタイム：主にタブレットドリル学習）を毎日実施する。
- ・学級活動で話し合い活動や、レクリエーションの企画などを通して、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表できる場を増やす。
- ・行事等で係活動や役割に責任をもたせ、コミュニケーション能力を高める手立てをとる。
- ・学校生活全般の中で、生徒自身が自ら選択する自己決定の場面を意識的に設定する。
- ・生徒に図書室利用を促進し、常に新聞閲覧ができるようにする。
- ・デジタルデトックスデーを設定し、保護者にも周知する。